

# 子宮頸がんワクチン

# 接種呼びかけ中止へ

## 厚労省勧告 副作用報告を重視

厚生労働省は十四日、子宮頸がんワクチンの接種を積極的に呼び掛けるのを一時中止するよう、全国の自治体に勧告した。接種対象者への案内送付などは取りやめるが、効果を重視して接種を希望する人のため、ほとんどの自治体で無料で受けられる定期接種からは外さない。

副作用情報を基に安心して長引く激しい痛みがではないと結論付けた全性を検討する厚労省 起きている可能性が高いことを受けた。の専門部会が同日、頻く、実態解明が進むまで低い接種によって積極的に勧めるべき



子宮頸がんワクチン接種の積極的勧奨を一時的に控えるべきだとの意見をまとめ、記者会見する厚労省専門部会の桃井真里子座長（右）と、同日、厚労省で

は四月の予防接種法改正に伴い、小学六年から高校一年相当の女子を対象に定期接種となつたばかり。専門部会の座長を務める桃井真里子・国際医療福祉大副学長は「早急に情報収集し、正確な頻度を

	副作用の発生率	重篤な副作用の発生率
子宮頸がん予防ワクチン(サーバリックス)	245.1	43.3
子宮頸がん予防ワクチン(ガーダシル)	155.7	33.2
ヒブワクチン	63.8	22.4
小児用肺炎球菌ワクチン	89.1	27.5
不活化ポリオワクチン	23.8	5.3
日本脳炎ワクチン	67.4	25.7
インフルエンザワクチン	7.5	2.3

(発生率は接種100万回当たりの発生数)

出す必要がある」と強調するが、接種呼びかけ再開の時期は読めず、医療現場や保護者に混乱が生じそうだと、厚労省によると、定期接種の対象となつて

報告の中で、痛みが体の広範囲に及んだ三十八症例を重点的に分析。発症のタイミングなどから「接種との関係が否定できない症例が多くありそうだとした。子宮頸がんワクチンは二社が販売している。厚労省のまとめでは、副作用の報告はグラクソ・スミスクライムの「サーバリックス」が接種百万回当たり二四五・一回、MSD社の「ガーダシル」は同一五五・七回。同期に定期接種になった小児用肺炎球菌ワクチンは同八九・一回、日本脳炎ワクチンは同六七・四回などだった。